

**2011年第1四半期の純利益は2.69億ドルと公表
税引き後営業利益は20億ドル**

2011年5月5日（ニューヨーク発）：AIGは、2011年第1四半期のAIGに帰属する純利益が2.69億ドル、税引き後営業利益が20億ドルになったと公表しました。これに対して、2010年第1四半期の純利益は18億ドル、税引き後営業利益は6.37億ドルでした。1株当たり希薄化後損益は、2011年第1四半期は0.35ドルの損失となり、これに対して2010年第1四半期は2.66ドルの利益でした。2011年第1四半期の1株当たり税引き後営業利益は1.30ドルとなりました。これに対して、2010年第1四半期は0.95ドルでした。

2011年第1四半期の業績には、日本の地震と津波、ニュージーランドの地震、オーストラリアの洪水に関連した17億ドルの税引き前異常災害損失などが顕著な影響を及ぼしました。これは、AIAグループ・リミテッドの有価証券評価益11億ドルと、金融受け皿会社（Maiden Lane III）におけるAIGの持分の公正価値の上昇7.44億ドルによってほぼ相殺されました。これに加えて、キャピタル・マーケットのポートフォリオにおけるランオフ事業では、2010年第1四半期に8,600万ドルの損失を出したのに対して、2011年第1四半期には2.77億ドルの税引き前利益を計上しました。これは主に、ランオフを進めているスーパーシニア・マルチセクター・クレジット・デフォルト・スワップの持分に関連する未実現時価評価益の増加によるものです。

また、2011年第1四半期の純利益には、負債償還による最後の正味税引き前費用33億ドル（税引き後24億ドル）が含まれています。これは、2年以上前倒しで、ニューヨーク連邦準備銀行（NY連銀）クレジット融資枠の全額返済および終了に関連する、残りの前払委託手数料資産を加速償却したことによるものです。

AIGは第1四半期に純利益をあげながら、1株当たりでは損失を計上しました。1株当たりで損失となったのは、一般会計原則で優先株主への見なし配当として扱われる2つの項目が、純利益から控除されたためです。一つは、優先株式の簿価と、資本再構成化において優先株式と交換された普通株式の公正価値との差異、約4.27億ドルです。もう一つは、米国政府が保有するすべてのAIG普通株式の売却費用、約3.85億ドルを負担するというAIGによるコミットメントです。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは以下のように述べました。「喜ばしいことに、NY連銀のクレジット融資枠の完了に伴う、最後の費用（ノンキャッシュ）を、既に案内してきた通り計上することができました。本四半期、AIGはその事業活動における強みと回復力を示しました。また革新的な商品やサービスを提供するという私たちの事業の根幹に注力することで、世界中に広がる当社の営業基盤の収益力を示すことができました。私たちは成長、持続的な収益確保、米国納税者への全額返済に重点を置いており、世界中の基盤を活用できるよう、ビジネスの活性化を進めてきました。」

「NY連銀に対する、金融受け皿会社（Maiden Lane II）のポートフォリオの購入に関する私たちの申し出が断られたのは残念です。私たちは直ちに、同金融受け皿会社（Maiden Lane II）の資産を取得するために取っておいた資金を、他の投資に配分し直しました。」

「私たちの世界的な損害保険事業であるチャーティスでは、第1四半期業績は日本の地震とその後津波による多額の異常災害損失の影響を受けましたが、正味収入保険料全体は増加し、契約維持率は堅調で、料率は安定しており業界標準を上回って推移しています。準備金も予測通り推移しています。生命保険およびリタイアメント・サービス事業であるサンアメリカ・ファイナンシャル・グループの収益性は堅調を維持しました。これは、プラスのキャッシュフロー、高い契約継続率、すべての商品ラインでの販売増加によって資産が増加したためです。航空機リース事業であるイン

ターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション (ILFC) では、収益性を安定させるために保有機の管理を続けながら、利益を維持しました。住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) では、新規契約の獲得が好調で、前年の第二抵当権付保険契約の動向が良好だったことにより小幅な利益をあげることができました。一方で、貸付者が融資関連書類の精査に注力したことにより、第一抵当権付保険契約の以前の請求拒否が取り消され利益の相殺要因となりました。」

2011年第1四半期のハイライト

- チャーティスの 2011 年第 1 四半期の営業損益は、前年同期が 8.79 億ドルの利益であったのに対して、4.63 億ドルの損失となりました。これには、異常災害損失が、前年同期の 5 億ドルに対して 17 億ドルとなったことが反映されています。第 1 四半期の正味収入保険料は、富士火災海上保険株式会社 (富士火災) を連結対象としたこと、チャーティスの米国事業が小幅増加したことを反映して、19.9%増加しました。富士火災と為替の影響を除くと、世界全体での正味収入保険料は 6.2%増加しました。これは、チャーティス U.S.の契約維持率の上昇、第 1 四半期に新たな顧客プログラムの引き受けが大きく増加したこと、さらにチャーティス・インターナショナルの既存ビジネスの成長によるものです。
- サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの営業利益は、2011 年第 1 四半期、2010 年第 1 四半期いずれも 11 億ドルとなりました。収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期の 47 億ドルに対して、31.4%増の 62 億ドルとなりましたが、これは、すべての商品ラインで業績が改善したためです。
- 2011 年第 1 四半期、金融サービス事業部門の営業損益は、前年同期の 1.71 億ドルの損失に対して、3.19 億ドルの利益となりました。これには、キャピタル・マーケットの第 1 四半期の営業損益が、前年同期の 8,600 万ドルの損失に対して 2.77 億ドルの利益となったこと、またインターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション (ILFC) の営業損益が、前年同期の 5,600 万ドルの損失に対して、1.17 億ドルの利益となったことが含まれています。ILFC では前年同期と比べて機体数が減少し、リース料収入 11 億ドル、減価償却費 4.53 億ドルを計上しました。
- AIG の親会社およびその他の事業の営業損益は、前年同期が 3800 万ドルの利益であったのに対して、2011 年第 1 四半期には 18 億ドルの損失を計上しました。これは主に、負債償還による正味税引き前費用 33 億ドル (税引き後 24 億ドル) を反映しており、NY 連銀クレジット融資枠の全額返済および終了に関連する、残りの前払委託資産の加速償却によるものです。この業績には、ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) の 2011 年第 1 四半期の営業利益が、前年同期の 7,300 万ドルに対して 1,300 万ドルになったことが含まれています。さらに第 1 四半期に、AIG が保有する AIA 有価証券と、メットライフ有価証券の売却による時価評価益は 9.05 億ドルとなりました。
- 非継続事業に含まれる AIG スター生命ならびに AIG エジソン生命を売却し、19 億ドルの税引き前利益をあげました (税引き後 14 億ドル)。
- 2011 年 3 月 31 日現在のトータル・エクイティは、858 億ドルとなりました。

税引き後営業利益（損失）への調整
第1四半期業績
（単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く）

			希薄化後1株当たり ⁽¹⁾	
	2011年	2010年	2011年	2010年
AIGに帰属する純利益（損失）	\$269	\$1,783	\$(0.35)	\$2.66
税引き後営業利益（損失）算出のために、損失を加えて利益を控除（税引き後）：				
バーゲン・パーチェス・ゲイン	-	332		
実現キャピタル・ゲイン（ロス）、サンアメリカのDACによる相殺および税引き後	(376)	(226)		
事業売却の純利益（損失）	(47)	(76)		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益（損失）	(69)	(107)		
NY連銀クレジット融資枠の償却費合計 ⁽²⁾	(2,358)	(415)		
事業売却の純利益	6	484		
繰延税金評価引当金の減算 ⁽³⁾	(563)	821		
非継続事業の純利益（損失）、税引き後 ⁽⁴⁾	1,646	333		
AIGに帰属する税引き後営業利益（損失）	\$2,030	\$637	\$1.30	\$0.95
(1) シリーズCの優先株主への純利益（損失）帰属後の普通株主に帰属する純利益（損失）に基づき2010年の値を算出。資本再構成化の完了を受けて、2011年の帰属分はなし。				
(2) 負債償還による税引き前費用33億ドルに含まれる。NY連銀クレジット融資枠の全額返済および終了に関連する、残りの前払委託資産の前倒し償却を表す。				
(3) 継続事業に帰属する税金評価引当金。				
(4) 2011年の値には、AIGスター生命ならびにAIGエジソン生命の税引き後売却益14億ドルを含む。2010年の値には、ALICO、AIGスター生命、AIGエジソン生命、ナンシャン、アメリカン・ジェネラル・ファイナンス（AGF）の業績を含む。				

税引き後営業利益の要約
第1四半期業績
（単位：百万米ドル）

	2011年	2010年
継続事業に属する保険事業の税引き前営業利益（損失）：		
チャータイス	\$ (463)	\$ 879
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ	1,143	1,119
小計 - 継続事業に属する保険事業	680	1,998
ILFC（金融サービス事業に計上）	117	(56)
モーゲージ・ギャランティ（その他の事業に計上）	13	73
第三者に対する負債の利息	(427)	(475)
その他		
金融受け皿会社（Maiden Lane III）	744	751
資産運用事業	488	(10)
キャピタル・マーケット	277	(86)
金融サービス事業- その他	(75)	(29)
その他の事業	115	(188)
小計 - 継続事業	1,932	1,978
AIAならびにメットライフの公正価値利益	905	-
NY連銀および米国財務省への支払利息、優先持分からの利益	20	(713)
法人税（経費）／ベネフィット	(827)	(628)
AIGに帰属する税引き後営業利益（損失）	\$ 2,030	\$ 637

チャーティス

チャーティスの 2011 年第 1 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業損失は 4.63 億ドルとなりました。これは、異常災害損失が 17 億ドルとなったことを反映しています。このうち 13 億ドルが日本の地震、津波によるもので、日本地震再保険株式会社（JERC）に関連する損失も含まれています。残りの 4 億ドルは、ニュージーランドの地震やオーストラリアの洪水など日本以外の異常災害によるものです。これに対して、2010 年第 1 四半期の異常災害損失は 5 億ドルで、チリの地震、米北東部の暴風雨、マデイラ島の洪水、米南東部の冬の凍害によるものでした。異常災害損失を除くと、チャーティスの 2011 年第 1 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益は、およそ 13 億ドルとなり、正味投資利益の好調、また利益率が高くて変動が小さいセグメントの引受けを増やそうとするチャーティスの長期的な戦略を反映しています。

2011 年第 1 四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が 102.5 であったのに対して、異常災害損失による 19.9 ポイントを含め、119.0 となりました。2011 保険事故年度のコンバインド・レシオは、異常災害損失と前年の動向を除くと 98.7 で、前年同期と同じになりました。2011 年第 1 四半期には、際立った支払いの拡大はありませんでした。

2011 年第 1 四半期の世界全体での正味収入保険料は、前年同期比で 19.9%増加し、92 億ドルとなりました。富士火災と為替の影響を除くと、世界全体での正味収入保険料は 6.2%増加しました。これは、チャーティス U.S.の契約維持率の上昇、第 1 四半期に新たな顧客プログラムの引受けが大きく増加したこと、さらにチャーティス・インターナショナルの既存ビジネスの成長によるものです。料率は安定しており業界標準を上回って推移しており、また主な経営指標は引き続き良好なトレンドを示しました。

第 1 四半期にチャーティスは、富士火災がこれまで保有していなかった同社発行済み株式の 45.2%、ならびに新株予約権を対象とする株式公開買い付けを実施することを発表しました。この公開買い付けを受けて、2011 年 3 月 31 日時点でチャーティスは富士火災株式合計の 98.4%を保有しています。今回の取引は、日本の保険市場での地位を強化しながら、事業ポートフォリオの多様化を図るというチャーティスの戦略に沿ったものです。

チャーティスはまた、グローバルなコマーシャルラインとコンシューマーラインにさらに力を入れるために、事業再編を発表しました。その移行の間、チャーティスは引き続きチャーティス U.S.およびチャーティス・インターナショナルとして業績を報告します。この新体制は、2011 年第 3 四半期から財務報告に反映されます。

サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ

サンアメリカの 2011 年第 1 四半期の営業利益は、2010 年第 1 四半期同様に 11 億ドルとなりました。2011 年第 1 四半期業績には、利回りの低下で一部相殺されたものの、パートナーシップ利益の増加 1.78 億ドル、金融受け皿会社（Maiden Lane II）の評価に関連する利益の増加 9,100 万ドルを要因とする正味投資利益の増加が含まれています。2011 年第 1 四半期業績には、サンアメリカのグループ・リタイアメント商品におけるスプレッドの前提を引き下げたことによる、不利な繰延保険獲得費用（DAC）のアンロック調整 7,600 万ドルが含まれています。サンアメリカは金融受け皿会社（Maiden Lane II）のポートフォリオから資産を購入するために、現金および短期投資の残高を増やしました。NY 連銀が、金融受け皿会社（Maiden Lane II）の資産を購入するという AIG の申し出が断られたため、サンアメリカは、通常投資利回りが低い他の債券投資に配分し直しました。

2011 年 3 月 31 日現在の運用資産は、前年同期の 2,355 億ドルから 8%増加して、2,539 億ドルとなりました。未実現評価益は、2010 年 12 月 31 日現在 33 億ドルであったのに対して、合計 41 億ドルでした。

収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期比 31%増の計 62 億ドルとなりました。これは、定額年金、変額年金いずれの預かり資産も、前年から大幅に増加したことによるものです。定

額年金預かり資産は、前年同期比 87%増加しました。パートナーである一部の銀行と、手数料引き下げと引き換えに、貸出金利を引き上げることを交渉したためです。これによって、保険契約者にとってサンアメリカの商品の魅力が高まりました。変額年金預かり資産は回復を続け、113%増加しました。これは競争力のある商品の拡充、多数の主要ブローカー/ディーラー事業者による販売回復、およびホールセール事業者の生産性向上、株式市場の回復によるものです。グループ・リタイアメント商品およびリテール向けミューチュアルファンドの預かり資産も、それぞれ 6%、49%増加しました。生命保険販売は、前年同期比 17 %増加しました。これは、独立代理店との関係を修復し、キャリア・エージェントの生産性を向上させるための努力が結果をもたらしているためです。

金融サービス事業

2010 年第 1 四半期、金融サービス事業部門は、前年同期の 1.71 億ドルの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業損失に対して、3.19 億ドルの利益を計上しました。

ILFC は、前年同期が 5,600 万ドルの営業損失を計上したのに対して、2010 年第 1 四半期は 1.17 億ドルの営業利益を計上しました。2011 年第 1 四半期に、ILFC はリース料収入 11 億ドル、減価償却費 4.53 億ドルを計上しましたが、これに対して 2010 年第 1 四半期のリース料収入は 12 億ドル、減価償却費は 4.94 億ドルでした。これは、前年と比べて機体数が少なくなったためです。さらに ILFC は、資産減損損失およびオペレーティング・リース関連費用 1.13 億ドルを計上しました。これは主に、売却またはその可能性がある航空機が 10 機あるためです。これに対して、2010 年第 1 四半期には、売却で合意した航空機について資産減損損失およびオペレーティング・リース関連費用 4.31 億ドルを計上しました。さらに ILFC では、借入金利全体の上昇によって支払利息が増加しました。

キャピタル・マーケットは、残りの AIG ファイナンシャル・プロダクツ・コーポレーション (AIGFP) デリバティブ・ポートフォリオを 2011 年 6 月 30 日までに清算する予定で、第 1 四半期の営業損益は、前年同期の 8,600 万ドルの損失に対して、2.77 億ドルの利益となりました。このような好業績の要因となったのは、主に AIGFP のスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオに関連する未実現時価評価益で、2011 年第 1 四半期に 3.23 億ドル、2010 年第 1 四半期に 1.19 億ドル計上しました。

AIGFP のデリバティブ・ポートフォリオの清算状況:

- AIGFP のデリバティブ・ポートフォリオの想定元本は、2010年3月31日時点の7,554億ドルから63%減少し、2011年3月31日時点では2,785億ドルとなりました。これにはスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ567億ドルが含まれています。
- トレードポジションは2010年3月31日時点の約14,300から、約11,500(80%)減少し、2011年3月31日時点では約2,800となりました。これには、AIGのダイレクト・インベストメント事業に管理が移管された非デリバティブ資産・負債のポジション約4,800は含まれていません。
- AIGFP ポートフォリオならびにダイレクト・インベストメント事業に関連して提供されている正味担保金額は、2010年3月31日時点の147億ドルから減少し、2011年3月31日時点では102億ドルとなりました。

親会社およびその他の事業

親会社およびその他の事業の営業損益は、前年同期が 3,800 万ドルの利益であったのに対して、2011 年第 1 四半期には 18 億ドルの損失を計上しました。これは主に、負債償還による正味税引き前費用 33 億ドルを反映しており、NY 連銀与信枠の全額返済および終了に関連する残りの前払委託資産の加速償却によるものです。さらに、AIG が保有する AIA 有価証券と、メットライフ有価証券の売により、第 1 四半期に公正価値利益は 9.05 億ドルとなりました。AIA 有価証券の評価益 11 億ドルが、メットライフ有価証券の売却に関連する 1.57 億ドルの損失で相殺された結果です。未配分の本部経費は、前年同期の 1.8 億ドルから減少して 6,800 万ドルとなりましたが、これはリストラ費用の減少を反映したものです。

AIG 傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) は、前年同期の 7,300 万ドルに対して、2011 年第 1 四半期には 1,300 万ドルの営業利益を計上しました。この結果は、2008 年にランオフとなった事業による保険料収入の減少、第一抵当権付保険契約での以前の請求の拒否あるいは取り消しの撤回の増加による損失の増加、また前年同期と比べて有利な実現損が減少したことを反映しています。これらは、第二抵当権付保険契約の請求の軽減が業務上変更されたことによるプラスの影響によって、一部相殺されました。

AIG のダイレクト・インベストメント事業の第 1 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前の営業利益は、前年同期の 1,500 万ドルに対して、4.88 億ドルとなりました。これは主に、固定満期投資および投資不動産の減損損失が縮小したこと、投資の公正価値利益が増加したことによるもので、負債のスプレッド縮小により一部相殺されました。

金融受け皿会社 (Maiden Lane III) における AIG の持分の公正価値は、2011 年第 1 四半期に 7.44 億ドル上昇しました。これは 2010 年第 1 四半期の 7.51 億ドルの上昇とほぼ同水準です。

カンファレンス・コール

AIG は、明日 2011 年 5 月 6 日 午前 8 時 (米東部時間) より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト (<http://www.aig.com>) でオンタイムに聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

#####

AIG の補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール、決算報告、決算補足資料には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測および見解が含まれている場合があります。これらの予測および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測および見解は、米国財務省 (「財務省」) が保有する AIG 株式の売却時期、財務省が保有する AIA オーロラの優先持分の返済の時期および方法、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益の目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、格付け機関の動向、市場環境の変化、異常損害の発生、重要な法的手続き、地方債ポートフォリオなど AIG の投資ポートフォリオにおける集中、損害保険の引受けならびに引当金に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、および 2011 年 3 月 31 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書の、パート I 項目 2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」)、パート II 項目 1A (「リスク要因」) ならびに 2010 年 12 月 31 日末の AIG のフォーム 10-K による年次報告書の、パート I 項目 1A (「リスク要因」) などで取り上げられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIG について

AIG グループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130 以上の国・地域でサービスを提供しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業を米国で展開しています。持株会社 AIG, Inc. の株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されています。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースには、一部、非 GAAP 型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト(<http://www.aig.com/>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2011 年第 1 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によって、発生した損失について得られていない税法上の恩典による影響、事業売却の結果、非継続事業、NY 連銀委託資産の償却、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、シリーズ C、E、F 優先株の転換、実現キャピタル・ゲイン（ロス）からサンアメリカの DAC による相殺を除いたもの、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動の影響、のれん代減損の影響、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、異常災害関連損失および前年の損害動向の影響、アスベスト関連の損失、外国為替レート、繰延税金評価引当金、富士火災のバーゲン・パーチェス・ゲインも示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握できると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、これによって、財務諸表を利用される投資家の方々にとって最も意味がある方法で、財務情報を表示、検討できるものと考えています。事業利益（損失）、は、チャータイスの業績を報告するために用いています。営業利益（損失）は、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、関連 DAC および販売促進資産（SIA）の償却、のれん代減損費用の調整前のもので、サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ（サンアメリカ）の業績を報告するために用いています。非継続事業の業績および、子会社売却の純利益（損失）は、これらの数値に含まれていません。AIG は、これらの数値によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解できると考えています。これらの数値を開示する場合、GAAP 型税引き前利益の調整を示します。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預かり資産およびその他の収入、生命保険 CPPE 売上高）には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。AIG は、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。

AIG は、重要な子会社売却や事業再編に関連する活動を踏まえて、2010 年第 4 四半期に税引き後営業利益（損失）の定義を見直しました（以前の修正純利益）。財務諸表を利用される方々にとって最も意味のある形で財務情報を表示、検討するために、定義を見直しました。AIG の税引き後営業利益（損失）の定義は、非継続事業の会計処理を行う要件を満たしていない事業売却による利益（損失）、NY 連銀前払委託資産の償却、事業売却関連の活動から生じたのれん代減損費用、サンアメリカの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連する繰延保険獲得費用（DAC）による相殺、そして繰延税金評価引当金の費用および減算を除くよう修正されました。

2008 年から AIG に影響を及ぼしてきたきわめて異常な出来事による歪んだ影響がなければ、AIG は、税引き後営業利益（損失）の修正により、継続事業の業績とその事業の基本的な収益性を浮き彫りにすることで、事業の営業成績をより正しく評価し、より良く把握できると考えています。さらに、DAC による相殺の調整は、生命保険業界の非 GAAP 型の財務数値では一般的な調整であり、AIG がサンアメリカの営業成績をどう評価しているかを示す指標として優れています。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

3月31日までの3ヶ月間

	2011年	2010年(a)	増減(%)
チャーティスの保険事業：			
正味収入保険料	\$ 9,166	\$ 7,644	19.9 %
正味既経過保険料	8,651	7,641	13.2
請求および請求調整費用	7,756	5,459	42.1
引受経費	2,537	2,374	6.9
事業利益 (損失)	(1,642)	(192)	(755.2)
正味投資利益	1,179	1,071	10.1
営業利益 (損失)	(463)	879	-
正味実現キャピタル・ゲイン (b)	47	137	(65.7)
バーゲン・パーチェス・ゲイン (c)	-	332	-
税引き前利益 (損失)	(416)	1,348	-
損害率	89.7	71.4	
経费率	29.3	31.1	
コンバインド・レシオ	119.0	102.5	
サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの事業：			
収入保険料の売上	621	667	(6.9)
保険証券発行手数料	684	648	5.6
GAAPによる収入に含まれない預かり資産、その他の収入	4,921	3,422	43.8
正味投資利益	6,226	4,737	31.4
営業利益	2,754	2,707	1.7
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA の償却 (経費)	1,143	1,119	2.1
正味実現キャピタル・ロス (b)	17	4	325.0
税引き前利益	(220)	(796)	72.4
	940	327	187.5
金融サービス事業：			
営業利益 (損失)	319	(171)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	6	(31)	-
税引き前利益 (損失)	325	(202)	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前	(1,767)	38	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	(438)	165	-
会社間連結・消去調整 (b)	(24)	(35)	31.4
継続事業のタックス・ベネフィット調整前利益 (損失)	(1,380)	1,641	-
タックス・ベネフィット	(200)	(447)	55.3
継続事業の純利益 (損失)	(1,180)	2,088	-
非継続事業のタックス・エクスペンス調整後利益	1,653	343	381.9
純利益	473	2,431	(80.5)
控除：			
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益 (損失)：			
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	252	519	(51.4)
その他	(55)	119	-
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	197	638	(69.1)
非支配的持分に帰属する非継続事業の純利益	7	10	(30.0)
非支配的持分に帰属する純利益	204	648	(68.5)
AIG に帰属する純利益	269	1,783	(84.9) %
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	\$ (543)	\$ 359	-

財務ハイライト（続き）

	3月31日までの3ヶ月間		
	2011年	2010年(a)	増減(%)
AIG に帰属する純利益	\$ 269	\$ 1,783	(84.9) %
AIG に帰属する非継続事業の利益、税引き後	1,646	333	394.3
事業売却の純損失、税引き後	(47)	(76)	38.2
事業売却の純利益 税引き後	6	484	(98.8)
繰延税金資産評価引当金（費用）／減算	(563)	821	-
NY 連銀前払委託資産償却 税引き後	(2,358)	(415)	(468.2)
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、税引き後	(387)	(229)	(69.0)
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連するサンアメリカのDACによる相殺	11	3	266.7
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの損失、税引き後	(69)	(107)	35.5
バーゲン・パーチェス・ゲイン	-	332	-
AIG に帰属する税引き後営業利益	\$ 2,030	\$ 637	218.7
普通株式1株当たり利益（損失） - 希薄化後：			
AIG 普通株主に帰属する純利益（損失）	\$ (0.35)	\$ 2.66	-
AIG 普通株主に帰属する税引き後営業利益	\$ 1.30	\$ 0.95	36.8
AIG 株主資本の普通株式1株当たり帳簿価額 (d)	\$ 47.32	\$ 558.26	(91.5)
AIG 株主資本の見積普通株式1株当たり帳簿価額 (e)	\$ 47.66	\$ 45.18	5.5 %
株主資本利益率	1.3%	9.8%	
株主資本利益率—税引き後営業利益 (f)	10.4%	3.9%	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- 特定の勘定は、2011年度の表示に合わせるため2010年度の結果では再分類されています。
- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない為替差損益を含むヘッジ取引からの利益（損失）を含んでいます。
- 富士火災の追加取得に関連するバーゲン・パーチェス・ゲインを示します。
- AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- 2010年については資本再構成化を実施して算出した見積普通株式1株当たり帳簿価額を示します。
- その他包括利益累積額を除く、調整後株主資本を用いて算出しています。